

陰徳文化がエシカル消費に与える影響

1250450 近藤達也

指導教員 肥前洋一

研究背景

近年、エシカル消費が世界的に注目されているが、日本ではその普及が遅れている。その理由の一つとして、日本の「陰徳文化」が指摘されている。ただし、陰徳文化がエシカル消費を妨げているという科学的根拠はまだ明確ではない。

研究目的

本研究の目的は、日本でエシカル消費の普及が遅れている要因解明の一助として、陰徳がエシカル消費に与えている影響を明らかにすることである。

研究方法

日本全国の20歳以上の男女640人を対象にアンケート調査を実施した。回答者の属性、エシカル消費への興味・購入頻度、陰徳の考え方の強さを測る質問を行った。また、各選択肢に点数を設定し、各回答者のエシカル消費に関する点数の合計と陰徳に関する点数の合計を算出し、点数が高いほど「エシカル消費に積極的である」、「陰徳の考え方が強い」と判断する。得られたデータをもとに重回帰分析を行った。

分析結果

エシカル消費への興味・購入頻度を被説明変数としたとき、陰徳的な考え方の強さを表す説明変数の係数は有意に負であった。すなわち、陰徳的な考え方が強い人ほどエシカル消費に興味がない、購入しない傾向が見られた。また、世帯年収、年齢、性別(女性)の3つの属性がエシカル消費と有意に正であった。他にも、エシカル消費の「興味」と「購入頻度」で相関分析したところ、強い正の相関が見られた。

考察・結論

陰徳がエシカル消費に与える影響を解明することを目的として、アンケート調査を行い回答データを分析した結果、陰徳がエシカル消費を妨げていることがわかった。また、世帯年収、年齢、性別などの属性もエシカル消費に影響を与えていることがわかった。陰徳文化がエシカル消費に負の影響を与えてはいるが、陰徳以外にも多くの要素がエシカル消費に影響を与えていると考えられる。また、陰徳的な考え方をなくしていくことは現実的ではない。そのため、陰徳文化の存在を前提としつつ、多くの人にエシカル消費への関心を高めてもらうことのほうが重要であると考えられる。